

# 1 アンケート調査結果の報告

## (1) 調査の概要

### ① 障害者手帳所持者及び障がい福祉サービス等を受給している児童

市内在住の障害者手帳所持者及び障がい福祉サービス等を受給している児童の中から無作為抽出した 2,200 人を対象に実施しました。

◇調査期間：令和 5 年 8 月 14 日（月）～令和 5 年 8 月 31 日（木）

◇調査方法：郵送による配布・回収

調査票対象	配布数	有効回収数	有効回収率
障害者手帳所持者(18 歳以上)	2,000 件	950 件	47.5%
障がい福祉サービス等を受給している児童(18 歳未満)	200 件	86 件	43.0%

### ② 事業所及び関係団体調査

市内の障がい福祉サービス提供事業所及び関係団体を対象に実施しました。

◇調査期間：令和 5 年 9 月 4 日（月）～令和 5 年 9 月 22 日（金）

◇調査方法：電子メール又は郵送による配布・回収

調査票対象	配布数	有効回収数	有効回収率
サービス提供事業所	80 件	34 件	42.5%
関係団体	2 件	2 件	100%

## (2) 報告書の見方

◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

◇本報告書は、それぞれの手帳所持者別にクロス集計をかけることで手帳所持者等を別々に集計しています。よって、重複手帳所持者等がそれぞれに数えられ、集計されています。

◇複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。

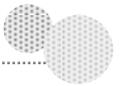
◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

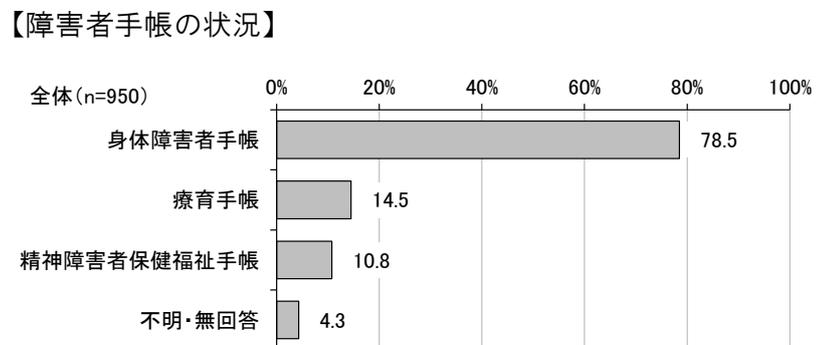
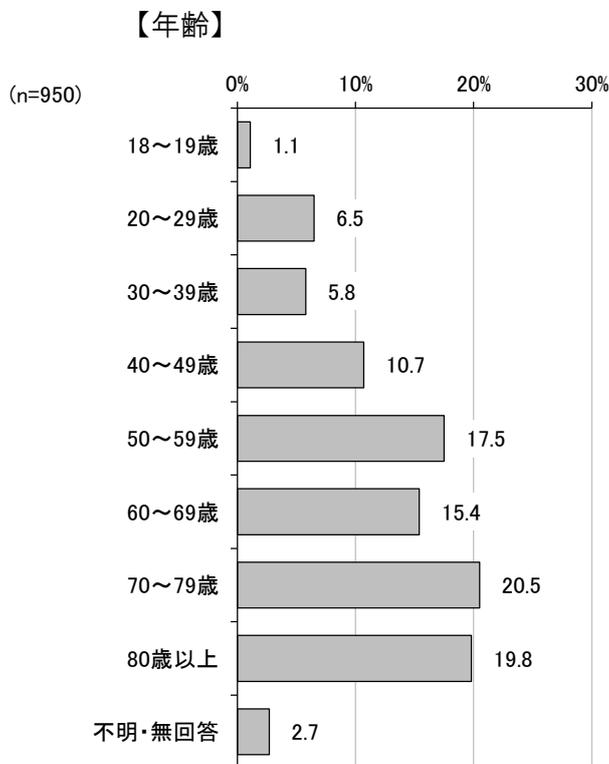
◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

## 2 調査結果の抜粋（障がい者手帳所持者等）

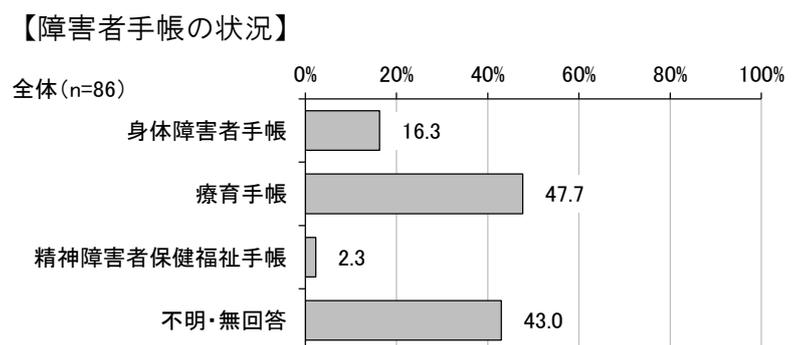
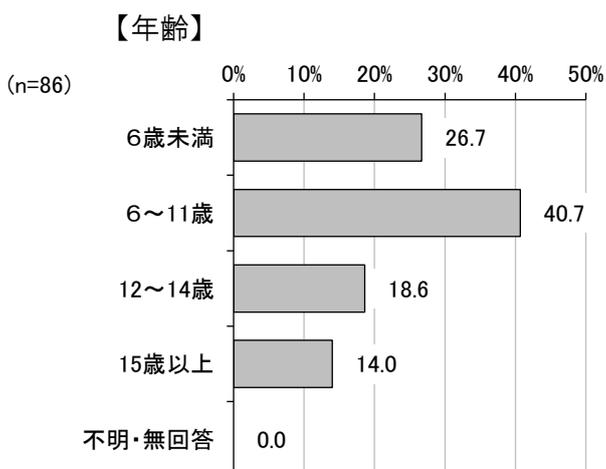
### (1) 回答者の状況について



18歳以上



18歳未満



## (2) 主な支援者について



### ■あなたを支援してくれる方は主に誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

主な支援者についてみると、「父母・祖父母・兄弟姉妹」が37.5%と最も高く、次いで「配偶者(夫または妻)」  
「ホームヘルパーや施設の職員」が29.2%、「子ども」が21.8%となっています。

手帳種別にみると、身体障害者手帳では「配偶者(夫または妻)」、その他の種別では「父母・祖父母・兄弟姉妹」が最も高くなっています。

年齢別にみると、60～79歳では「配偶者(夫または妻)」、80歳以上では「子ども」、その他の区分では「父母・祖父母・兄弟姉妹」が最も高くなっています。

18歳以上(手帳別・年齢別) ※日常の生活で、介助が必要な方への設問

単位：%		父母・祖父母・兄弟姉妹	配偶者(夫または妻)	子ども	ホームヘルパーや施設の職員	その他の人(ボランティア等)	いない	不明・無回答
全体(n=472)		37.5	29.2	21.8	29.2	3.6	3.6	3.4
手帳種別	身体障害者手帳(n=346)	27.5	36.1	28.0	27.5	2.9	4.0	3.2
	療育手帳(n=118)	76.3	0.8	0.8	44.1	3.4	1.7	0.8
	精神障害者保健福祉手帳(n=63)	61.9	22.2	6.3	22.2	6.3	4.8	1.6
年齢別	18～19歳(n=6)	100.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
	20～29歳(n=49)	91.8	4.1	0.0	28.6	4.1	0.0	2.0
	30～39歳(n=37)	83.8	0.0	0.0	16.2	8.1	5.4	2.7
	40～49歳(n=58)	60.3	24.1	3.4	37.9	8.6	3.4	0.0
	50～59歳(n=80)	47.5	37.5	17.5	25.0	2.5	5.0	1.3
	60～69歳(n=63)	14.3	47.6	17.5	30.2	1.6	3.2	4.8
	70～79歳(n=69)	11.6	44.9	21.7	24.6	2.9	2.9	10.1
	80歳以上(n=107)	2.8	28.0	57.0	32.7	1.9	4.7	2.8

■あなたを支援してくれる家族で、主な方の年齢をお答えください。

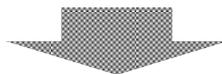
主に支援してくれる方の年齢についてみると、「50～59 歳」が 26.7%と最も高く、次いで「60～69 歳」が 25.7%、「70～79 歳」が 21.2%となっています。

手帳種別にみると、身体障害者手帳では「50～59 歳」、療育手帳では「50～59 歳」「60～69 歳」、精神障害者保健福祉手帳では「50～59 歳」「70～79 歳」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20～29 歳・50～59 歳では「50～59 歳」、30～39 歳・60～69 歳・80 歳以上では「60～69 歳」、40～49 歳・70～79 歳では「70～79 歳」が最も高くなっています。

18 歳以上（手帳別・年齢別）※家族による介助を受けている方への設問

単位：%		20 歳	30 歳	40 歳	50 歳	60 歳	70 歳	80 歳	90 歳以上	不明・無回答
		29 歳	39 歳	49 歳	59 歳	69 歳	79 歳	89 歳		
全体 (n=378)		1.1	1.6	9.8	26.7	25.7	21.2	10.8	0.5	2.6
手帳種別	身体障害者手帳 (n=280)	1.1	2.1	9.3	25.7	23.6	21.1	13.6	0.7	2.9
	療育手帳 (n=92)	0.0	0.0	12.0	30.4	30.4	16.3	6.5	1.1	3.3
	精神障害者保健福祉手帳 (n=52)	1.9	0.0	9.6	28.8	23.1	28.8	5.8	0.0	1.9
年齢別	18～19歳 (n=6)	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 (n=47)	2.1	2.1	12.8	61.7	14.9	4.3	0.0	0.0	2.1
	30～39歳 (n=31)	0.0	0.0	0.0	16.1	74.2	9.7	0.0	0.0	0.0
	40～49歳 (n=45)	0.0	0.0	24.4	8.9	22.2	44.4	0.0	0.0	0.0
	50～59歳 (n=66)	3.0	1.5	7.6	34.8	7.6	18.2	22.7	0.0	4.5
	60～69歳 (n=43)	2.3	7.0	7.0	27.9	37.2	9.3	2.3	2.3	4.7
	70～79歳 (n=50)	0.0	0.0	14.0	8.0	16.0	48.0	12.0	0.0	2.0
	80歳以上 (n=87)	0.0	1.1	2.3	24.1	32.2	17.2	21.8	1.1	0.0



◆介助を行う家族のうち、約 3 割が 70 歳以上となっている。

### (3) 住まいや暮らしについて



■あなたは現在どのように暮らしていますか。(○は1つだけ)

■あなたは今後3年以内にどのような暮らしをしたいと思いますか。(○は1つだけ)

現在暮らしている場所についてみると、「一般の住宅」が 85.8%と最も高く、次いで「福祉施設(高齢者施設)」が 3.5%、「福祉施設(障がい者支援施設)」が 2.5%となっています。

今後3年以内に暮らしたい場所についてみると、「一般の住宅」が 84.1%と最も高く、次いで「福祉施設(高齢者施設)」が 4.5%、「福祉施設(障がい者支援施設)」が 3.4%となっています。

18歳以上(手帳別)【現在、暮らしている場所】

単位: %		一般の住宅	グループホーム	福祉施設(障がい者支援施設)	福祉施設(高齢者施設)	病院(入院中)	その他	不明・無回答
全体(n=950)		85.8	1.6	2.5	3.5	1.4	2.1	3.2
手帳種別	身体障害者手帳(n=746)	86.7	1.1	1.6	3.2	1.5	2.3	3.6
	療育手帳(n=138)	73.2	5.1	13.8	3.6	1.4	1.4	1.4
	精神障害者保健福祉手帳(n=103)	86.4	2.9	1.9	1.9	1.0	2.9	2.9

18歳以上(手帳別)【今後3年以内に暮らしたい場所】

単位: %		一般の住宅	グループホーム	福祉施設(障がい者支援施設)	福祉施設(高齢者施設)	その他	不明・無回答
全体(n=950)		84.1	1.6	3.4	4.5	2.1	4.3
手帳種別	身体障害者手帳(n=746)	86.1	0.9	2.1	4.4	2.0	4.4
	療育手帳(n=138)	65.9	5.8	16.7	4.3	1.4	5.8
	精神障害者保健福祉手帳(n=103)	87.4	1.9	1.9	1.9	3.9	2.9

■希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。

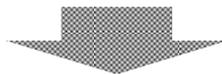
(あてはまるものすべてに○)

希望する暮らしを送るために必要な支援についてみると、「経済的な負担の軽減」が 56.1%と最も高く、次いで「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が 37.2%、「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること」が 31.3%となっています。

手帳種別にみると、すべての種別で「経済的な負担の軽減」が最も高くなっています。

18 歳以上（手帳別）

単位：%		在宅で医療的ケアなどが適切に得られること	障がい者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	相談対応等の充実	地域住民等の理解	情報の取得利用や意思疎通について	その他	不明・無回答
全体(n=950)		31.3	22.3	37.2	13.1	56.1	27.1	13.6	17.6	5.7	11.2
手帳種別	身体障害者手帳(n=746)	33.6	22.9	38.5	11.8	54.2	23.5	10.7	16.1	5.2	11.9
	療育手帳(n=138)	21.7	30.4	40.6	23.9	60.9	42.8	26.1	33.3	5.8	5.1
	精神障害者保健福祉手帳(n=103)	21.4	21.4	22.3	13.6	68.9	39.8	23.3	21.4	3.9	10.7



◆現在の住まい及び今後3年以内の希望する住まいでも、「一般の住宅」が約8割を占めており、地域生活へのニーズが高い。

◆希望する暮らしを送るために必要な支援では、「経済的な支援」のほか、【身体】では、在宅で必要なサービスやケアを受けられること、【療育】では、相談対応や情報取得に関する支援、【精神】では、相談対応や地域住民の理解がそれぞれ高い。



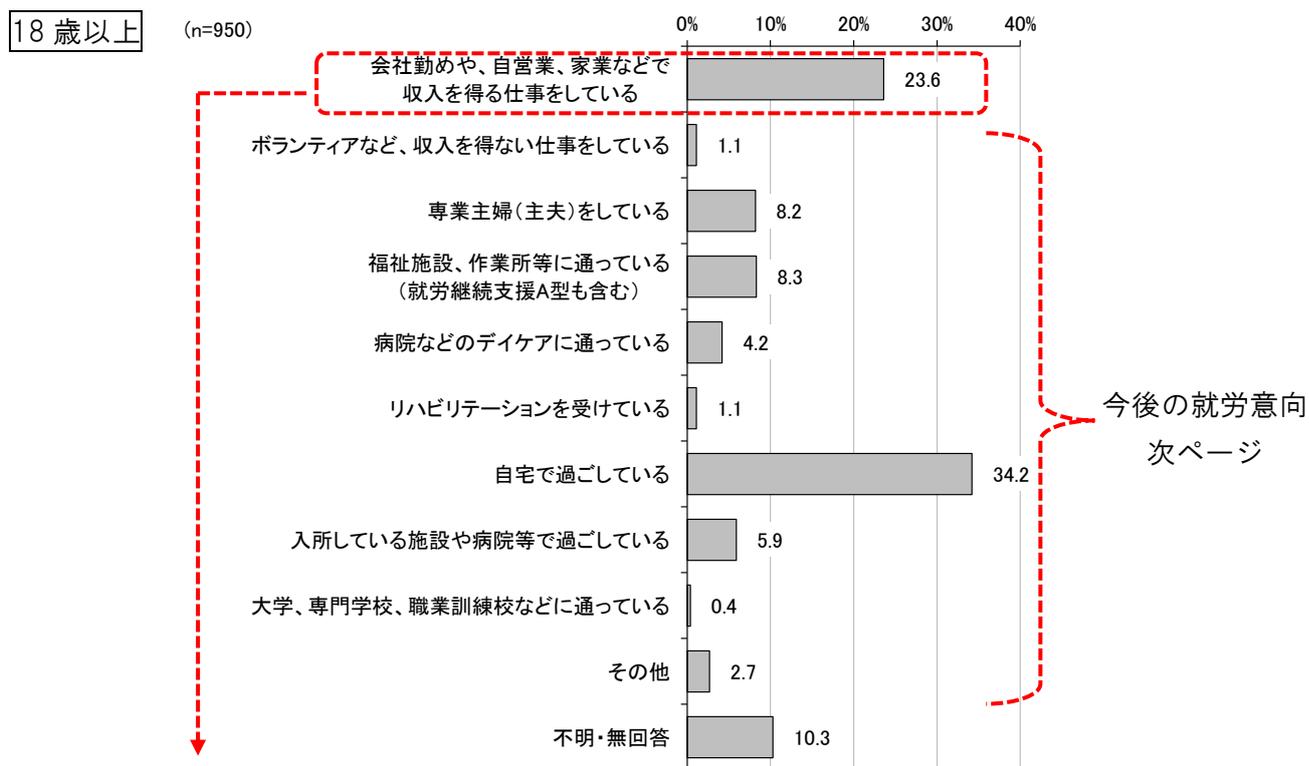
## (4) 就労について

■あなたは平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つだけ)

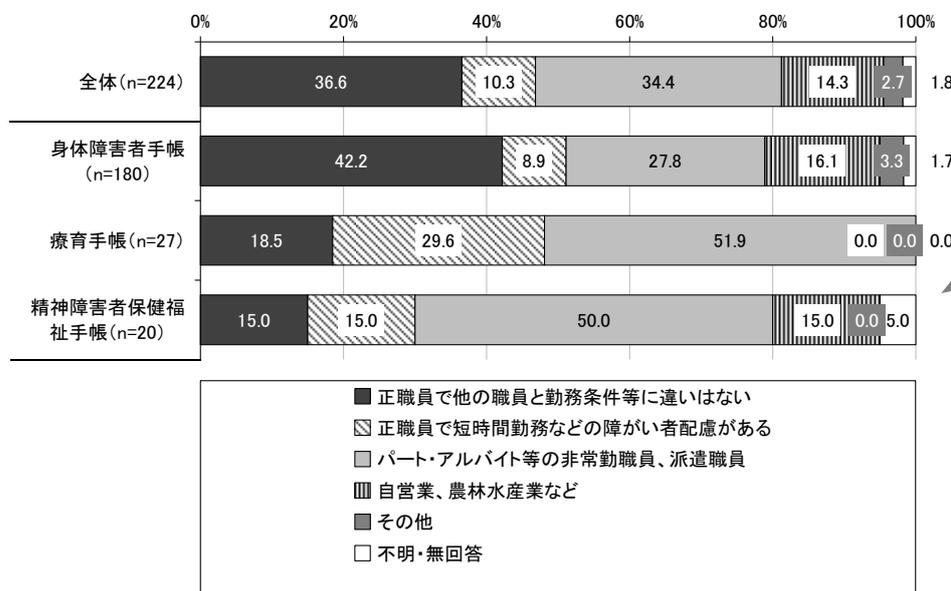
■どのような勤務形態で働いていますか。(○は1つだけ)

平日の日中の主な過ごし方についてみると、「自宅で過ごしている」が 34.2%と最も高く、次いで「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」が 23.6%、「福祉施設、作業所等に通っている(就労継続支援 A 型も含む)」が 8.3%となっています。

勤務形態についてみると、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が 36.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が 34.4%、「自営業、農林水産業など」が 14.3%となっています。



18歳以上(手帳別)【勤務形態】



【療育】【精神】  
では、  
非正規が約半数

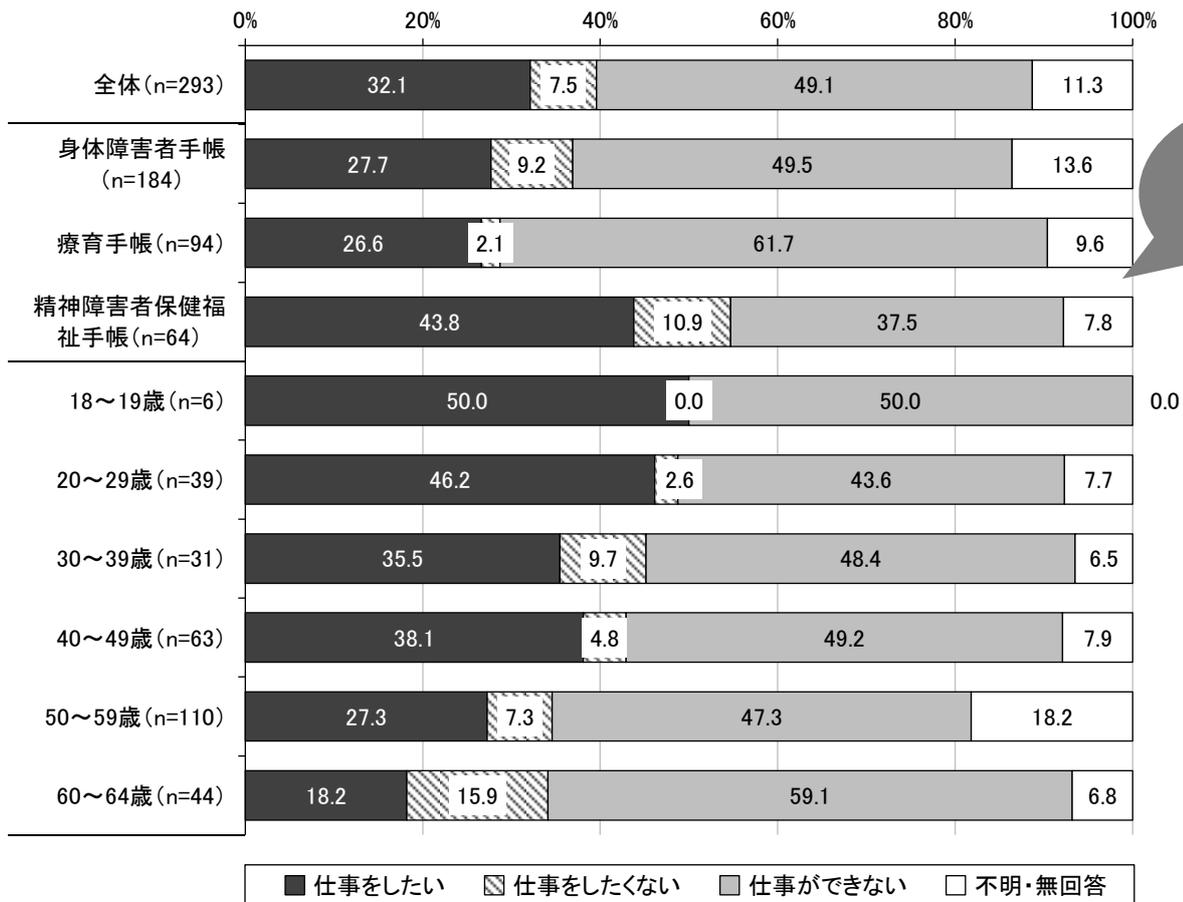
■あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(○は1つだけ)

今後、収入を得る仕事をしたいと思うかについてみると、「仕事ができない」が49.1%と最も高く、次いで「仕事をしたい」が32.1%、「仕事をしたくない」が7.5%となっています。

手帳種別にみると、精神障害者保健福祉手帳では「仕事をしたい」、その他の種別では「仕事ができない」が最も高くなっています。

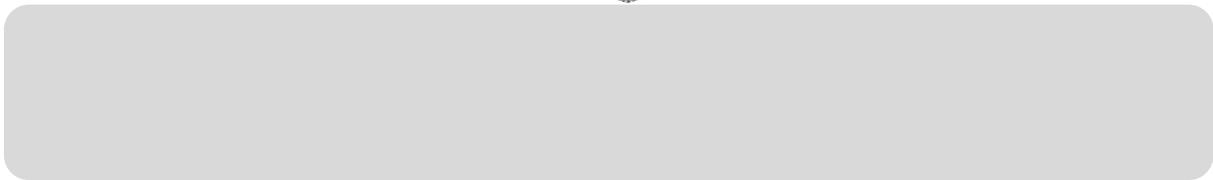
年齢別にみると、20～29歳では「仕事をしたい」、その他の区分では「仕事ができない」が最も高くなっています。

18歳～64歳（手帳別・年齢別）



【障がい者の就労支援で必要なこと】（複数回答）

項目	割合 (%)
1 職場の上司や同僚に障がいの理解があること	40.0%
2 職場の障がい者理解	38.0%
3 勤務時間や日数が体調に合わせて変更できること	33.8%
4 具合が悪くなった時に気軽に通院できること	31.6%
5 通勤手段の確保	28.5%



- ◆一般就労をしている人は全体の約2割。【精神】では、今後の就労意向が他よりも高くなっている。
- ◆就労支援で必要なことでは、職場や一緒に働く人の障がいへの理解を求める人が多い。

## (5) 福祉サービスの利用について

■あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後（概ね3年以内）利用したいと考えますか。

現在利用しているサービスについて、18歳以上では、「計画相談支援」「生活介護」「居宅介護（ホームヘルプ）」、18歳未満では、「放課後等デイサービス」「障害児相談支援」「計画相談支援」が上位となっています。

今後利用を希望するサービスについて、18歳以上では、「計画相談支援」「短期入所（ショートステイ）」、18歳未満では、「放課後等デイサービス」「障害児相談支援」が上位となっています。

### 18歳以上

【現在利用しているサービス／今後利用を希望するサービス（上位5位）】（複数回答）

現在利用しているサービス			今後利用を希望するサービス		
		割合(%)			割合(%)
1	計画相談支援	14.5%	1	計画相談支援	15.2%
2	生活介護	7.7%	2	短期入所(ショートステイ)	10.1%
3	日常生活用具給付事業	6.8%	3	施設入所支援	9.9%
4	居宅介護(ホームヘルプ)	5.2%	3	日常生活用具給付等事業	9.9%
4	就労継続支援(A型、B型)	5.2%	5	生活介護	9.8%

【施設入所支援を希望する時期】（n=94）

「将来的な希望」70.2%、「1年以内の希望」10.6%、「3年以内の希望」4.3%

### 18歳未満

【現在利用しているサービス／今後利用を希望するサービス（上位5位）】（複数回答）

現在利用しているサービス			今後利用を希望するサービス		
		割合(%)			割合(%)
1	放課後等デイサービス	60.5%	1	放課後等デイサービス	53.5%
2	障害児相談支援	58.1%	2	障害児相談支援	46.5%
3	計画相談支援	44.2%	3	児童発達支援	39.5%
4	児童発達支援	39.6%	4	計画相談支援	38.4%
5	医療型児童発達支援	11.6%	5	地域定着支援	20.9%

◆18歳以上では、今後利用を希望するサービスとして、「短期入所（ショートステイ）」「施設入所支援」の割合が、現在利用している割合よりも高くなっている。

## (6) 権利擁護について

■あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。

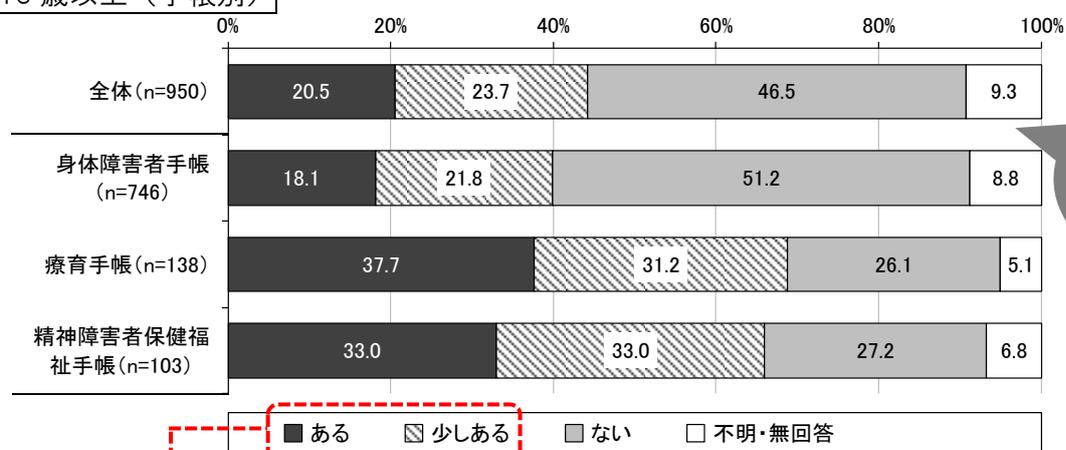
(○は1つだけ)

障がいがあることによって差別や嫌な思いをすることがあるかについてみると、18歳以上では、「ない」が46.5%と最も高く、次いで「少しある」が23.7%、「ある」が20.5%となっています。

手帳種別にみると、身体障害者手帳では「ない」、療育手帳では「ある」、精神障害者保健福祉手帳では「ある」「少しある」が最も高くなっています。

18歳未満では、「ない」が39.5%と最も高く、次いで「ある」が31.4%、「少しある」が25.6%となっています。

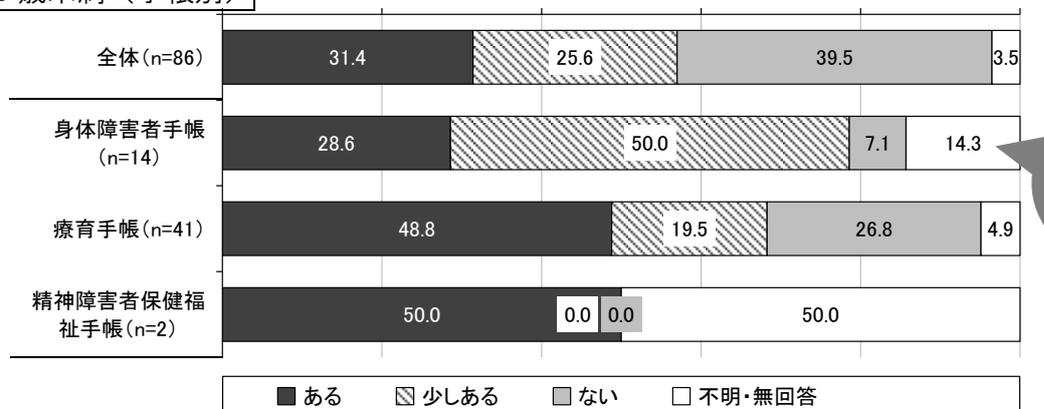
18歳以上（手帳別）



「ある」＋  
「少しある」  
約5割

どのような場面で差別や嫌な思いをしましたか(上位3位)		割合 (%)
1	外出中	45.5%
2	学校・仕事場	39.0%
3	病院などの医療機関	21.0%

18歳未満（手帳別）



「ある」＋  
「少しある」  
約6割

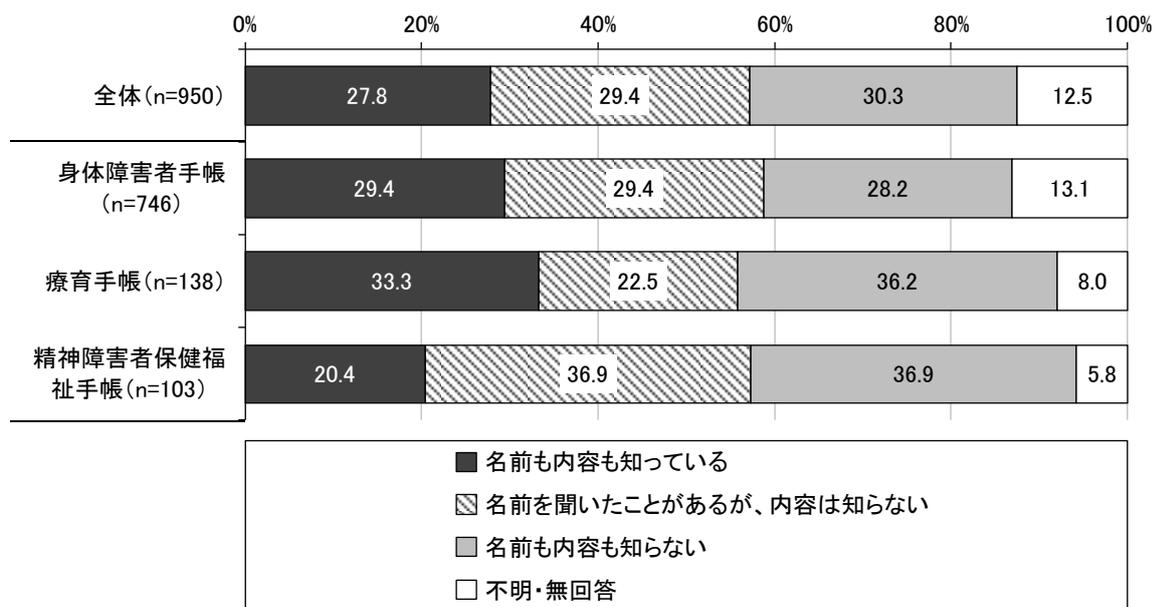
どのような場面で差別や嫌な思いをしましたか(上位3位)		割合 (%)
1	学校・仕事場	61.2%
2	外出中	40.8%

■ 成年後見制度についてご存じですか。(○は1つだけ)

成年後見制度の認知度についてみると、「名前も内容も知らない」が30.3%と最も高く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が29.4%、「名前も内容も知っている」が27.8%となっています。

手帳種別に見ると、身体障害者手帳では「名前も内容も知っている」「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」、療育手帳では「名前も内容も知らない」、精神障害者保健福祉手帳では「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」「名前も内容も知らない」が最も高くなっています。

18歳以上（手帳別）



- ◆ 障がい者を理由に、差別や嫌な思いをしたことがある人の割合は、18歳以上が約5割、18歳未満が約6割と、18歳未満の方がやや高い。
- ◆ 差別や嫌な思いをした場面では、「外出中」「学校・仕事場」が多い。
- ◆ 成年後見制度の認知度は、約6割となっている。

## (7) 福祉等に関する情報の取得について

■あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

障がいのことや福祉サービスなどに関する情報の入手先についてみると、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が32.1%と最も高く、次いで「行政機関の広報誌」が30.6%、「家族や親せき、友人・知人」が27.7%となっています。

手帳種別にみると、身体障害者手帳では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」、療育手帳では「サービス事業所の人や施設職員」、精神障害者保健福祉手帳では「インターネット」「かかりつけの医師や看護師」が最も高くなっています。

18歳以上（手帳別）

単位：%		本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	行政機関の広報誌	インターネット	家族や親せき、友人・知人	サービス事業所の人や施設職員	障がい者団体や家族会（団体の機関誌など）	かかりつけの医師や看護師
全体 (n=950)		32.1	30.6	23.9	27.7	15.6	4.8	22.6
手帳種別	身体障害者手帳 (n=746)	34.5	33.1	22.5	27.1	11.3	4.4	22.8
	療育手帳 (n=138)	18.8	15.2	15.9	35.5	42.0	10.9	12.3
	精神障害者保健福祉手帳 (n=103)	20.4	22.3	36.9	27.2	21.4	0.0	36.9
単位：%		介護保険のケースワーカーや 病院的ケアマネジャー	民生委員・児童委員	生園通 園施設や こども園 や保育所、 学校、幼 稚	間の相 談支援 事業所 などの 民	行政機 関の相 談窓口	その他	不明・無回答
全体 (n=950)		13.7	2.2	0.4	3.1	8.0	3.9	6.7
手帳種別	身体障害者手帳 (n=746)	13.0	2.5	0.3	1.7	8.2	3.6	6.3
	療育手帳 (n=138)	5.8	0.7	2.9	12.3	8.7	5.1	8.7
	精神障害者保健福祉手帳 (n=103)	20.4	1.9	0.0	5.8	8.7	3.9	8.7

18歳未満では、「インターネット」が44.2%と最も高く、次いで「家族や親せき、友人・知人」が37.2%、「通園施設や保育所、幼稚園、こども園、学校の先生」が32.6%となっています。

年齢別にみると、11歳以下では「インターネット」、12歳以上では「家族や親せき、友人・知人」が最も高くなっています。

18歳未満（年齢別）

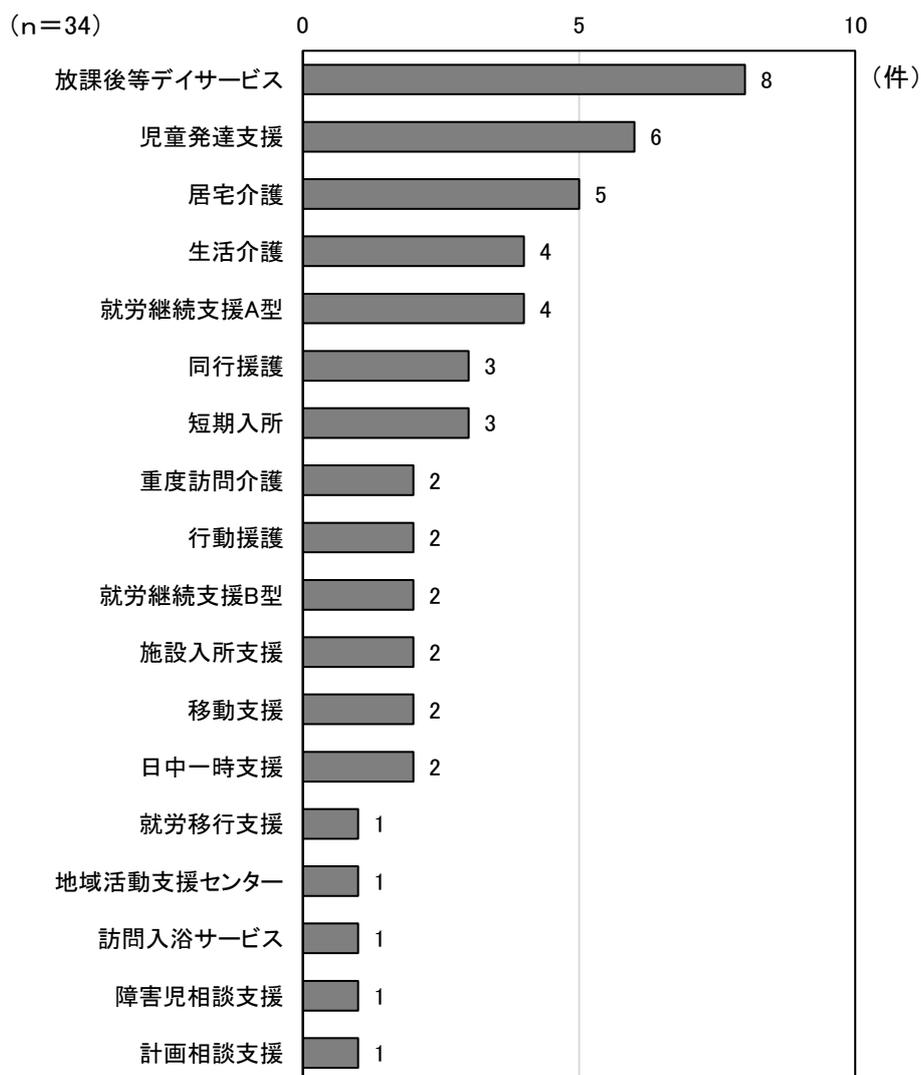
単位:%		本や雑誌のニュース、テレビ	行政機関の広報誌	インターネット	家族や親せき、友人・知人	サービス事業所の人や施設職員	障がい者団体や家族会（団体の機関誌など）	かかりつけの医師や看護師	
全体 (n=86)		18.6	12.8	44.2	37.2	29.1	2.3	14.0	
年齢別	6歳未満 (n=23)	8.7	4.3	52.2	8.7	39.1	0.0	17.4	
	6～11歳 (n=35)	25.7	20.0	51.4	37.1	25.7	2.9	5.7	
	12～14歳 (n=16)	18.8	12.5	31.3	68.8	25.0	6.3	25.0	
	15歳以上 (n=12)	16.7	8.3	25.0	50.0	25.0	0.0	16.7	
単位:%		ネーチャや病院のケアセンター	民生委員・児童委員	の先生	通園施設やこども園、学校	民間の相談窓口	行政機関の相談窓口	その他	不明・無回答
全体 (n=86)		2.3	0.0	32.6	16.3	10.5	4.7	3.5	
年齢別	6歳未満 (n=23)	0.0	0.0	39.1	13.0	26.1	0.0	8.7	
	6～11歳 (n=35)	5.7	0.0	34.3	17.1	2.9	8.6	2.9	
	12～14歳 (n=16)	0.0	0.0	12.5	18.8	12.5	6.3	0.0	
	15歳以上 (n=12)	0.0	0.0	41.7	16.7	0.0	0.0	0.0	

## 2 事業所調査結果の抜粋

### (1) サービスの提供体制について

#### ■現在、実施しているサービス（複数回答）

提供している障がい福祉サービスをみると、「共同生活援助」が9件と最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が8件、「児童発達支援」が6件となっています。

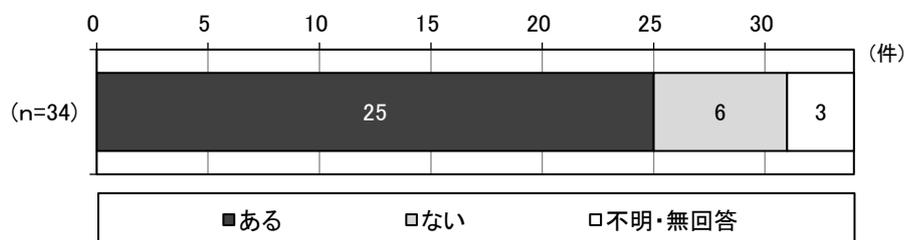


## (2) 利用者の受入れについて



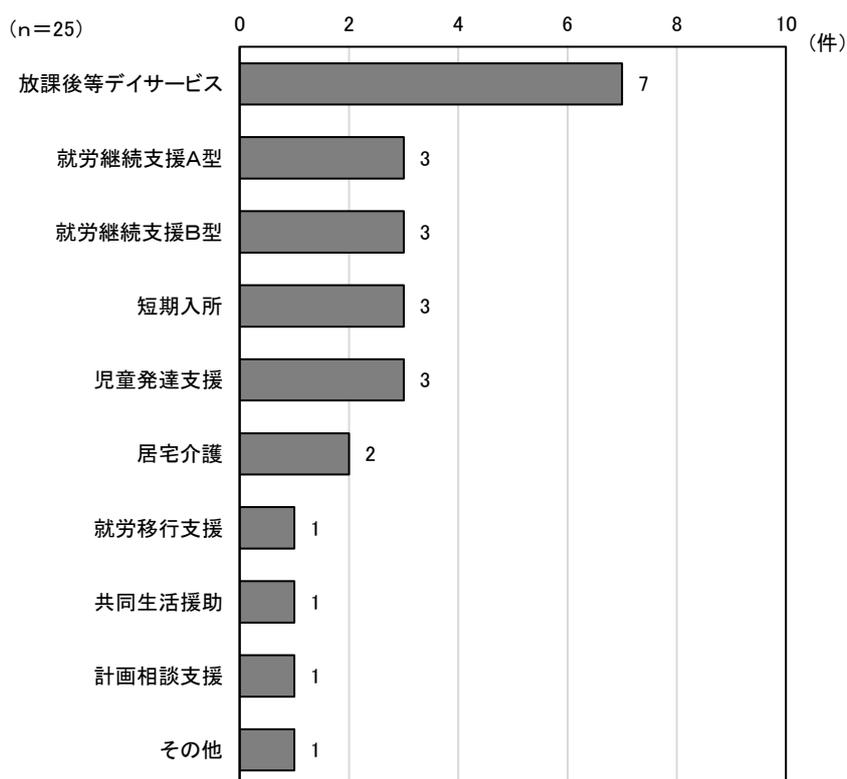
■利用者からの依頼に対して受入れ（サービス提供）できなかったことがありますか。（1つに○）

利用者からの依頼に対して受入れ（サービス提供）できなかったことがあるかについてみると、「ある」が 25 件、「ない」が 6 件となっています。



■受入れできなかったサービスは何ですか。（複数回答）

受入れできなかったサービスを見ると、「放課後等デイサービス」が7件と最も多く、次いで「就労継続支援 A 型」「就労継続支援 B 型」「短期入所」「児童発達支援」で3件となっています。



### (3) 不足している障がい福祉サービスについて



- 利用者から望む声が多いが、不足していると感じられる障がい福祉サービスがありますか。また、その原因は何だとお考えですか。

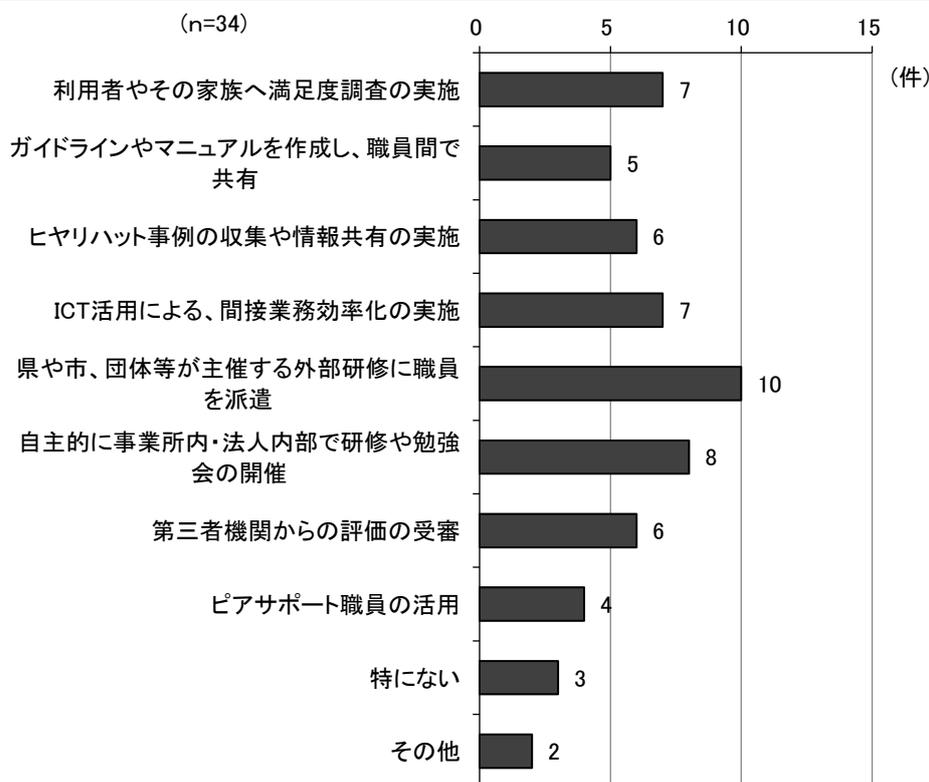
不足しているサービス	その理由
移動支援	・ヘルパーが不足している。
相談支援事業	・採算がとりづらい。 ・制度上の問題。 ・利用者一人一人の計画相談、日常の相談など関わるに時間が少ない。
通院等介助	・ヘルパー不足、車輛を持っている事業所が少ない。
同行援助	・事業所が少ない。
共同生活援助	・スタッフの確保が難しい。
児童発達支援	・事業所を選べるというより、空いている所しか行けないというような話をきくので。
就労継続支援A型	・就労B型からステップアップとして障がい者雇用に進む場合が多い。 ・就労A型を目標にされている方が多い。 ・障がい者雇用にはハードルが高い。 ・選択肢を増やしてあげてほしい。
障害児相談支援	・事業単体での黒字化が困難。
短期入所	・提供できる事業所が少ない。 ・全室、利用者（入所）が使用しており、空いている居室がない。 ・事業所が限られている。 ・人員が確保できない、デメリットが大きい。 ・設備投資が大きい・夜勤帯の従業員の不足。 ・定員数。
放課後等デイサービス	・事業所数が足りない、人材が足りない、発達障害の診断数増加に伴う利用希望。 ・絶対数は不足していないと思う。しかし、その内容に偏りがあったり、知的な遅れがない子どもには、ニーズが一致していない所が多いように見受けられる。
訪問入浴サービス	・1回あたりの報酬単価が上がることはない。

## (4) サービスの質の向上について



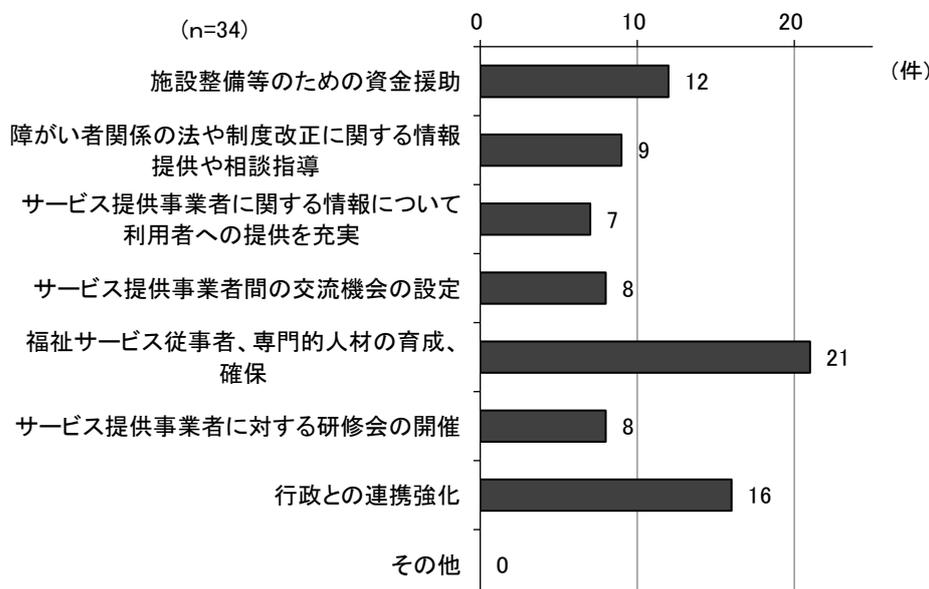
### ■ 提供するサービスの質の向上に向けて、今後実施したい取り組み（複数回答）

提供するサービスの質の向上に向けて、今後実施したい取り組みについてみると、「県や市、団体等が主催する外部研修に職員を派遣」が10件と最も多く、次いで「自主的に事業所内・法人内部で研修や勉強会の開催」が8件、「利用者やその家族へ満足度調査の実施」「ICT活用による、間接業務効率化の実施」が7件となっています。



### ■ サービスの質の向上のために、今後必要な行政の支援（複数回答）

サービスの質の向上のために、今後必要な行政の支援は何かについてみると、「福祉サービス従事者、専門的人材の育成、確保」が21件と最も多く、次いで「行政との連携強化」が16件、「施設整備等のための資金援助」が12件となっています。

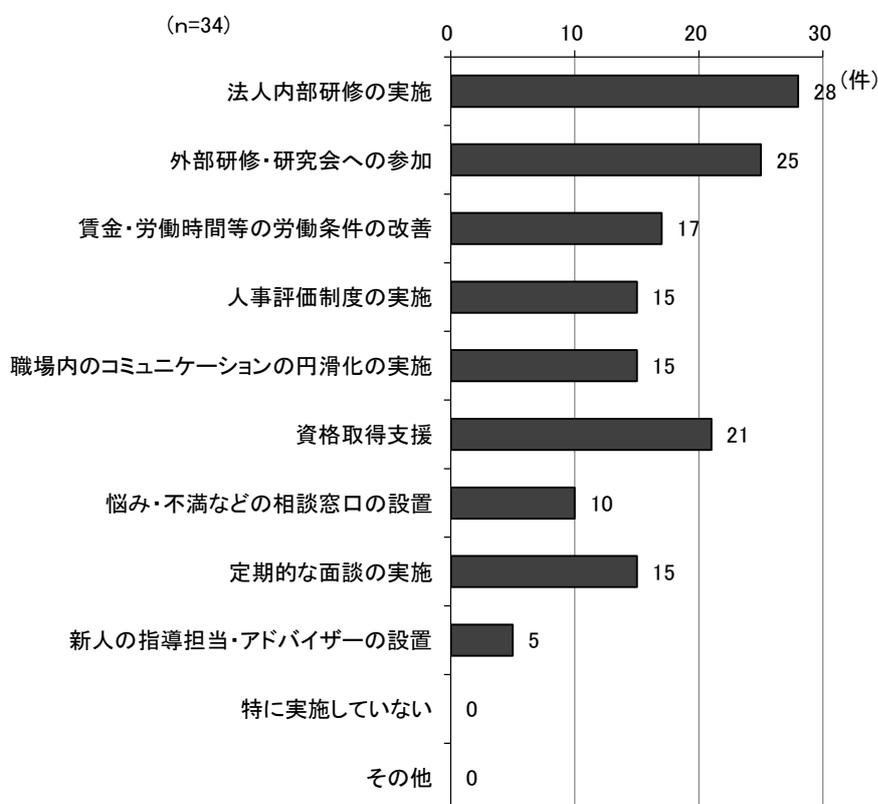


## (5) 人材育成・定着について



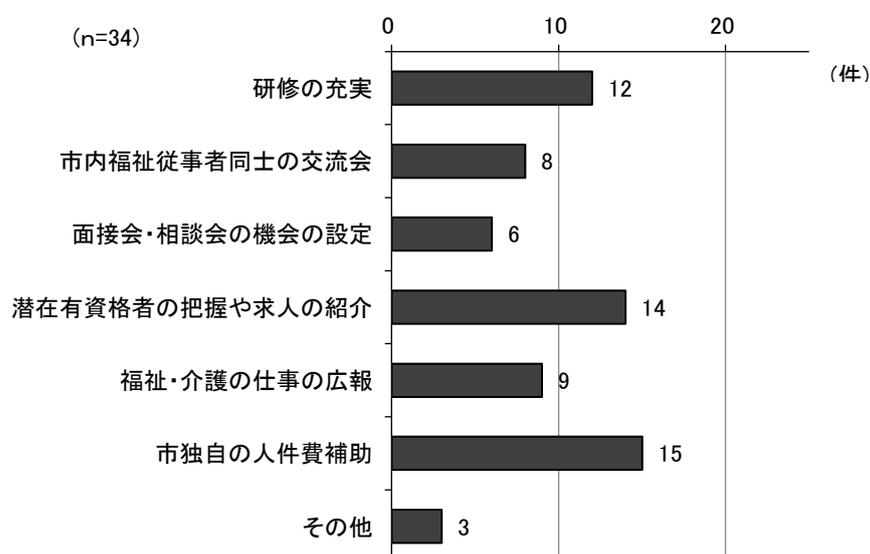
### ■人材育成・定着のために行っている取り組み（複数回答）

人材育成・定着のためにどのような取り組みを行っているかについてみると、「法人内部研修の実施」が 28 件と最も多く、次いで「外部研修・研究会への参加」が 25 件、「資格取得支援」が 21 件となっています。



### ■福祉人材の確保・育成・定着に向けて市に望む支援施策（複数回答）

福祉人材の確保・育成・定着に向けて市に望む支援施策についてみると、「市独自の人件費補助」が 15 件と最も多く、次いで「潜在有資格者の把握や求人の紹介」が 14 件、「研修の充実」が 12 件となっています。



### 3 団体調査結果の抜粋

#### (1) 団体の活動状況について

1 団体の活動における問題点や課題
・地域のろうあ者が現在は毎定例会3名程度参加があり、生きた手話が学べている。だが、会員のろうあ者は全員60代以上であり、5年後10年後のことを考えると若いろうあ者の参加が望まれる。 【丸亀手話サークル亀の子会】
・会員の高齢化により減少が進んでいる。若い人が参加してくれない。 【丸亀市身体障害者福祉連合協会】
2 今後力を入れていきたい活動内容
・会員の増強と拡大。障がい者福祉の向上。障がい者スポーツとレクリエーション。 【丸亀市身体障害者福祉連合協会】

#### (2) 不足している障がい福祉サービスについて

不足していると思われるサービスの内容や事業所や行政として対応を検討した方がよい内容
・ひまわりセンターを利用しているが、各部屋への管理事務所からの案内は音声放送のみ。緊急放送が入っても聴覚障がい者には届かない。視覚的に伝わる設備が必要。 ・障がい者の高齢化により交通の便が悪い。アイレックスでイベントがあってもバスの便が悪く行きたくても行けない。

#### (3) 連携・協力している機関や団体について

連携・協力している内容
・県聴覚障害者協会が開く手話奉仕員・手話通訳者養成講座（県か市からの委託）の受講生のサークル活動体験の受入れ。 ・県聴覚障害者協会と香川手話通訳問題研究会の機関誌の購読をし、行事参加を会員に呼びかけている。 ・丸亀市社協からの依頼を受け、小学校への出前授業や夏休み学生ボランティア教室を引受けている。社協主催のふくしフェスティバルや愛の広場に参加している。 【丸亀手話サークル亀の子会】
・香川県身体障害者協会と福祉大会、スポーツ大会などの実施。 ・丸亀市では愛の広場、福祉フェスティバル、スポーツ大会、映画の上映会など。 【丸亀市身体障害者福祉連合協会】